

NIPPON

かわら版

59号

日本製紙

発行所 東京都千代田区神田駿河台4丁目6番地 千101-0062 日本製紙株式会社新聞営業本部 電話 03-6865-1030 FAX 03-6865-0319 www.nipponpapergroup.com/newsprint@nipponpapergroup.com ©日本製紙株式会社2016

前田新聞営業本部長 新春トップインタビュー



日本製紙株式会社 執行役員 新聞営業本部長 前田 高弘

新年明けましておめでとうございます。日頃より新聞社の皆様には大変お世話になっており、心より感謝申し上げます。昨年6月に新聞営業本部長に就任以降、多くの新聞社の皆様に訪問させて頂きました。その際には、温かい歓迎を頂き誠にありがとうございました。今年も新聞営業本部員一同の総力を上げ、皆様のお役に立てるよう尽力する所存です。
インタビューアー かわら版NIPPON編集長 佐藤 貴光 中嶋 利昌

本部長就任以降、半年を振り返りいかがですか？

入社以来、生産工場含め一貫して新聞用紙事業に携わっており、直近では1998年～2010年まで新聞営業本部に在籍しておりました。その最中の2005年度に日本の新聞用紙需要は377万5千トンのピークを迎えました。2014年度用の紙需要は312万トン、ピーク時から17.4%低下したことになります。約65万トンの用紙需要が失われた現実を前に、新聞用紙事業は大きな変革の中にあるのだと実感しました。

その一方で、新聞用紙という基礎素材のありがたみも感じています。前任地の四国コカ・コーラの商品が最終消費材でしたから、消費者に評価されるかどうか勝負です。店頭での売り上げが悪ければ、翌週には売場の棚から外されることも多々ありました。しかし新聞用紙は、社会から必要とされる新聞の基礎資材として使用され、そのおかげでお客様から毎月発注を頂ける。そのありがたみを大切にしなければならぬと思っています。

新聞用紙事業の課題についてどう考えていますか？

用紙需要減、そして主原料である古紙の高騰、二つの大きな課題に直面しているのが現状です。リーマンショック前にも古紙の高騰がありましたが、当時の需要環境を踏まえると、現在の方がより状況は深刻だと捉えています。昨年、同業他社の新聞用紙を含む洋紙事業撤退のニュースがありました。これは、今の状況がいかに深刻かを物語るものです。工場閉鎖、マシン停機、人件費削減、といった自助努力を継続してなんとかやってきましたが、これまでと同じやり方では駄目だと言う思いを強くしています。

用紙需要の底が見えない状況ですが？

一般的に、世の中が大きく変わるには30年掛かると言われます。1995年に当本部にインターネットが導入されました。この年を元年とすると2016年は21年目。確かにその間大きく世の中が変わってきています。今の



状況を踏まえ、10年後に紙はどうなっているか？予測するのは困難ですが、大変革期に我々がいるのは間違いありません。仮に今後毎年3%ずつ減少していくと、2025年の新聞用紙需要は今の約7割となります。そうしたシナリオも検証しておく必要はあると思います。

一方で、日本の場合、図1で示す通り、紙・板紙総需要における新聞用紙のシェアが諸外国よりも高いのが特徴です。海外では、紙・板紙総需要の減少よりも、新聞用紙需要減のスピードが速く、どんどんシェアを失っています。紙の総需要が伸びている中国でさえ同様の状況です。これは日本の新聞販売店網の存在が大きく、海外のような急激な部数減を防ぐ要因になっていると考えています。この優れたシステムを、新聞社の皆様と協力して更に活用出来ないかと思案しています。

新聞古紙価格が高値で推移しています。どのようにお考えですか？

古紙動向も頭の痛い課題です。部数、頁数、チラシの減少に伴い発生量が大きく低下、新聞古紙の需給がタイトになっています。それにつれて新聞古紙の価格も上昇しています(図2)。中国を中心とする輸出向けの古紙価格上昇が国内の古紙相場も引き上げるとい傾向が続いていますが、現在の価格上昇は国内メー

図1

	2014年消費量(対05年成長率)		紙・板紙トータル消費量に占める新聞用紙のウエイト
	紙・板紙	新聞用紙	
米国	▲20.5%	▲60.5%	9.9% ⇒ 4.9%
欧州	▲12.2%	▲32.8%	12.0% ⇒ 9.2%
日本	▲14.5%	▲15.4%	11.9% ⇒ 11.8%
韓国	10.60%	▲37.3%	13.5% ⇒ 7.7%
中国	69.80%	▲3.0%	5.6% ⇒ 3.2%



カー同士の競争という側面も有りそうです。

新聞古紙は様々な紙の原料に適しているため、新聞用紙メーカー以外の会社も購入しています。そうした製品の需要と新聞古紙発生量にはギャップが存在しており、古紙価格が上昇しやすい環境にあります。貴重な資源の海外流出防止、古紙価格の安定、これらの問題は火急の課題です。

昨年、一部のお客様と印刷損紙のクロズドループを開始しました。古紙資源確保のためにはとても重要な取り組みであり、今後もぜひ推進して行きたいと考えています。

2016年何か新たにチャレンジしたいことはありますか？

仕事面では、明るく活発な職場を作りたいです。いい仕事をするためには、家庭も仕事も明るくな

くはいいけません。事業環境は極めて厳しいですが、部員が笑顔で議論出来る、そんな職場を目指します。プライベート面では、趣味のマラソンを充実させていきたいです。東京に戻ってからというもの、通勤に時間を取られ練習不足気味ですが、あらためてフルマラソン4時間切りにチャレンジしていきます。

新聞社の皆様へ一言をお願いします。

新聞用紙は単一品種で300万トンの需要がある社会的に価値の高い事業です。新聞社の皆様とは、同じ船に乗せて頂いており、短期的ではなく、中長期的な視点で強固な関係を築いていきたいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

図2



第8回 東北・新潟新聞用紙品質会議

新聞の文化を守り、絶えず発信し続ける

新潟県新潟市にて開催

新潟日報社様にて、総勢46名により「第8回東北新潟・新聞用紙品質会議」を開催しました。

会議は、石巻兼岩沼工場長／煙山より挨拶を行い、続いて新潟日報社取締役編集制作統括本部長／阿達秀昭様より「各社の交流を深め、会議を有意義なものにして頂きたい。当社では6社7紙の受託印刷を行っており、参考になるところは生かして頂きたい。」とお言葉を頂き、開催しました。

おもしろしんぶん館見学

会議に先立ち新潟日報社様の「おもしろしんぶん館」を見学しました。館内は新聞印刷インキの4色に分かれたエリアで構成されています。新聞作りは青色、県展や県縦断駅伝などの事業や防災拠点機能など新聞づくり以外の新潟日報社様の取り組みは黄色、印刷の仕組みなどは赤



新潟日報社(幹事会社)
阿達取締役編集制作統括本部長

色、黒色のエリアで輪転機を見学することも可能で、非常に見ごたえがあり、子供から大人まで楽しめる空間でした。

新聞社様及び当社からの発表

当社、岩沼工場技術室技術操業G長／伊藤より「新聞用紙に使用される各種パルプについて」と題し、各種パルプの特性などについての説明がありました。新聞用紙はDIPをメインとし、求められる品質に応じてその他パルプの配合を調整しています。各新聞社様の求められる品質を分析して品質向上に役立てていくことを伝えました。

続いて、新潟日報社印刷局印刷発送部技術担当部長／田中弘規様から「受託紙対応型モニタープルーフの構築」をテーマに発表して頂きました。紙面データの流出がないセキュリティ体制を構築し、①8紙面を運用可能②iPadとの連携による高い可搬性③省スペース化及び省資源化④汎用ソフトでの高画質化を実現されました。発表後の印刷所見学及び会議後の万代本社見学では実物を前にして再度説明をして頂きました。本件について各新聞社様より多くの質問があり、非常に関心の高いテーマであったことがうかがえました。

ディスカッション

各新聞社様とも当社製品にはおおむね満足頂いているものの、シワ、印面のガサツキに対する



受託紙対応型モニタープルーフの見学

品質要望を頂きました。シワについては用紙プロフィールの安定化及び仕上設備の諸条件調整、ガサツキは使用するパルプの品質改善に取り組んでいることを報告し、理解を深めて頂きました。各新聞社様から頂いた貴重なご意見に対し、出来る限り改善に努めて行きます。

最後に、幹事社をお引き受け頂いた新潟日報社様始め、ご参加頂きました各新聞社様の多大なるご協力に改めて感謝申し上げます。

開催日／2015年10月9日(金)

参加社／(50音順)秋田魁新報社、岩手日報社、河北新報社、デーリー東北新聞社、東奥日報社、新潟日報社、福島民友新聞社、ミノリ郡山工場、山形新聞社
(新聞社24名、当社22名 計46名)

第57回九州・沖縄新聞用紙品質会議

高精細化による印面品質向上を目指して



今回で57回目を迎えた「九州地区新聞用紙品質会議」は、長崎新聞社様にて開催、総勢41名が出席しました。長崎新聞社様では昨年輪転機更新が行われたこともあり、今回は本会議開催の前に長崎新聞印刷センター様に足を運び、実際に印刷が行われている現場の見学から始まりました。

本会議では冒頭に主催者を代表して八代工場長／五十嵐より挨拶を行い、続いて幹事会社の長崎新聞社取締役総務局長／池本仁史様より、品質会議が長崎で開催されることに対する感謝のお言葉と、各社が一堂に会して意見交換が出来る貴重な場の中で、今後の新聞発行に少しでも有益になるように活発な意見交換をお願いしたいのご挨拶を頂き会議が始まりました。

会議内容

まず長崎新聞印刷センター代表取締役社長／村田博行様より「余裕地のない現在地での輪転

機更新」と題し、工事期間中の1セット体制化の中、新聞頁数の固定化や各メーカーと連携し緻密な工事計画表を軸に効率的な工程で進められたことが、業界初といわれる現在地での輪転機更新の成功につながったことを発表頂きました。

続いて八代工場よりバイオマスボイラー設備の紹介と最近の古紙発生状況の説明を行った後、今回のメインテーマである高精細化と用紙についての意見交換を行いました。議論に入る前に当社新聞営業部長代理／佐藤より「高精細スクリーンと高濃度インキ」と題し、網点の線数、種類や高精細の定義といった基礎的な部分と、高濃度インキの利点、懸念点の説明を行い全体で知識を深めることから始めました。

その後、各新聞社に事前にご提供頂いた紙面を並べ印面比較を行いました。紙面は各社統一した図柄での比較を行えるよう、夏の甲子園決勝戦の翌日の一面とし、10分程度の印面比較をまず行いました。次に自社以外で気になる新聞社の紙面を選び、選んだ理由と質問事項を発表し、その後指名された新聞社が回答を行うといった形式で会議を進めました。

従来とは違った形式で行ったこともあり、各社からの意見も非常に多く飛び交い活発な議論となりました。また高精細に適した紙の要望として平滑性や吸水度の高い紙が多く挙げられ、



長崎新聞社(幹事会社)
池本取締役総務局長

今後各社で更なる高精細化が進んだ際の印面品質向上を目指す上で貴重なご意見を頂きました。

次回開催場所は佐賀

今回は佐賀県(幹事会社:佐賀新聞社様)にて開催を予定しています。毎回各新聞社の皆様の多大なるご協力に感謝すると共に、今回頂いた貴重な意見を参考にしながら当社として更なる品質向上と安定供給に努めて参ります。

また最後となりますが、この度幹事会社としてご尽力頂きました長崎新聞社様に厚くお礼申し上げます。

開催日／2015年9月10日(木)～11日(金)

参加社／(50音順)大分合同新聞社、沖縄タイムス社、熊本日日新聞社、佐賀新聞社、長崎新聞社、南日本新聞社
(新聞社23名、当社18名 計41名)

かわら版 NIPPON 2015年を振り返る

KAWARABAN-NIPPON LOOK BACK 2015

1月

損紙クロズド・ループシステムの契約を締結

読売新聞仙台工場様で印刷時に発生する損紙を、日本製紙が購入し新聞用紙の原料として活用する新システム導入の契約を締結しました。新聞古紙の需給安定化に向け、同システムを拡大しています。

2月

四国最大規模の小松島太陽光発電所、営業運転開始

徳島県小松島市にて三菱商事(株)と進めてきたメガソーラープロジェクトの発電設備が完成。発電規模は2.1万kWで、一般家庭約7,000世帯分の電力を四国電力(株)へ販売します。



3月

赤いお茶「サンルージュ」のウェブサイトを開設

サンルージュの赤い茶葉には、ポリフェノールの一種「アントシアニン」が豊富で、健康への効果と今後の展開が期待されています。植林で培った技術が茶苗の安定的な育苗に活用されています。

<http://www.nipponpapergroup.com/sunrouge/>



4月

吉永工場と富士工場を統合

間接部門の協業体制強化による効率化を図るため、静岡県富士市にある2工場を統合。「富士工場」となりました。

5月

八代工場 N1バイオマス発電設備竣工

森林資源の豊富な八代の立地と集荷網を生かし、燃料に間伐材などの未利用材を100%使用するバイオマス発電所が完成(発電規模5kW)。6月より九州電力(株)に販売を開始しました。



石巻工場で石炭・バイオマス混焼発電事業に着手

三菱商事(株)と発電事業会社「日本製紙石巻エネルギーセンター(株)」を設立。14.9万kWの発電設備を建設し、2018年3月事業開始を予定しています。

6月

前田新聞営業本部長就任

赤津前本部長からバトンタッチ。5年ぶりの新聞営業本部復帰です。

7月

都市対抗野球大会、2年ぶり3度目の本戦出場

東京ドームで開催された第86回都市対抗野球大会に石巻硬式野球部が出場。初戦JX-ENEOSに0対2と敗退しましたが、今年の奮起に期待です。温かいご声援ありがとうございました。



第22回新聞製作技術展 (JANPS 2015) 開催

「未来につなぐ新聞技術」をテーマに、東京国際展示場にて3年ぶりに開催。3日間で11,000人を超える入場者となりました。

10月

松崎啄也選手がドラフトで読売ジャイアンツから指名

プロ野球ドラフト会議において、松崎選手が読売ジャイアンツから8位で指名されました。コースに逆らわない思い切りの良いスイングから強い打球を放つ右の強打者で、飛距離は1軍レベル。今後の活躍が期待されます。



セルロースナノファイバーを実用化した紙おむつを発売

セルロースナノファイバー (CNF) の表面に抗菌・消臭効果のある金属イオンを大量に保有することで、従来の3倍以上という便臭の消臭力を実現。日本製紙クレシアが販売する大人用紙おむつ「肌ケア アクティ」シリーズに採用され、世界初の機能性CNF実用化商品となりました。

特種東海製紙(株)と段ボール原紙及び重袋用・一般両更クラフト紙事業にかかわる基本合意書を締結

古紙価格の高止まり・円安による原燃料価格上昇など厳しい事業環境において、販売機能統合・新製造会社への出資などの事業提携について基本合意。2016年10月をめどに実施する予定です。

12月

日本製紙クレインズが全日本アイスホッケー選手権大会で優勝!

王子イーグルスとの決勝戦を制し、2大会ぶり7度目の優勝を果たしました。アジアリーグも熱戦中。リーグ最長となる560試合連続出場中(2015年12月20日時点)の背番号23、鉄人「大澤秀之」選手の活躍に注目です。

